



越前松平家の名品 15 ～ 着物 ～

- 会場 松平家史料展示室
- 会期 平成24年11月6日(火)
～平成25年1月14日(月)
- 休館日 11月26日(月)、12月10日(月)、
12月11日(火)、
12月28日(金)～1月4日(金)

今回は越前松平家にゆかりの江戸時代後期から大正時代の着物を4つのテーマでご紹介します。一言に着物と言っても、着用する季節ごとの違いはもちろん、時代によっても仕立てや技法、着方の違いや流行が見られます。また江戸時代には武家の女性ならではのデザインや決まりごともありました。このような様々な着物の見どころをどうぞご覧下さい。

季節と着物

今も昔も私たちは季節に合わせた着物を身に付けます。江戸時代と明治時代以降では衣替えの細かな日取りが違いますが、大まかには春秋と冬で、裏地のない単衣と裏地のある^{あわせ}裕とを入替えます。そこに夏は麻製、冬には綿入などの着物も取り入れて、年間の気温差に対応してきました。ここでは季節によって変化する着物の種類やデザインをご紹介します。



白麻地浜松桜模様帷子振袖

武家の女性と着物

江戸時代の武家女性の着物には2つの特徴があります。1つは家格によって着ることができる着物の色や種類、ランクが決められていたことです。もう1つは細かな吉祥模様と、風景に古典モチーフという2種類のデザインが特に好まれた点です。家格とデザインを組み合わせ、その範囲の中でファッションを楽しんだ様子が、越前松平家伝来の着物にも見ることができます。



黒紅練貫地松竹梅亀甲七宝花菱鶴模様腰巻

近代の着物

明治時代の半ばに本格的に化学染料が導入されたことで、鮮やかな色や自由な模様の着物が段々と作られるようになりました。大正時代の様々なデザインの着物からは、着物にも新しい時代が受け入れられたことを感じることができます。

子どもの着物

子ども用の着物は、子どもの成長に合わせて仕立てられています。肩上げと腰上げで寸法が調整され、振袖の脇は体温の熱を逃がすために開いています。そして愛らしい模様や吉祥文様には、子どもの健やかな成長を祈る親心が見えるようです。



浅葱縮緬地竹梅鶴模様女児振袖

展示資料一覧

No.	資料名称	員数	時代	所蔵
1	薄萌黄縮緬地御所車草花流水模様単衣	1 領	江戸時代後期	福井市春嶽公記念文庫
2	白麻地浜松桜模様帷子振袖	1 領	江戸時代後期	個人蔵（当館保管）
3	紺青紹地あやめ模様単衣	1 領	大正時代	越葵文庫
4	紅綸子地折枝花車模様打掛	1 領	江戸時代後期	当館蔵
5	黒紅練貫地松竹梅亀甲七宝花菱鶴模様腰巻	1 領	江戸時代後期	福井市春嶽公記念文庫
6	白縮緬地藤桜牡丹紗綾形模様単衣	1 領	江戸時代後期	福井市春嶽公記念文庫
7	浅葱縮緬地草木流水軒端模様振袖	1 領	江戸時代後期	当館蔵
8	紫縮緬地松藤橋模様振袖	1 領	大正時代	越葵文庫
9	黒縮緬地竹波模様着物	1 領	大正時代	越葵文庫
10	紺縮緬地几帳橘柳模様着物	1 領	大正時代	越葵文庫
11	紺青縮緬地蘭模様振袖	1 領	明治～大正時代	越葵文庫
12	珊瑚珠平絹地扇面散波模様女児振袖	1 領	江戸時代後期	個人蔵（当館保管）
13	緋縮緬地桜方輪車模様女児振袖	1 領	江戸時代後期	個人蔵（当館保管）
14	浅葱縮緬地竹梅鶴模様女児振袖	1 領	明治時代	越葵文庫
15	小豆縮緬地紅白梅牡丹雪模様振袖	1 領	江戸時代後期～明治時代	越葵文庫
16	帯留	24 点	江戸時代後期～昭和時代	福井市春嶽公記念文庫

※着物という言葉が一般的になるのは明治時代以降で、それまでは小袖と呼ばれていましたが、本展ではどちらも着物と表記しています。

次回の展示

松平家史料展示室

「越前松平家の名品16」

平成25年1月17日(木)～3月10日(日)

松平家史料展示室 展示解説シート No.71
平成24年11月6日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 (0776)21-0489 FAX(0776)21-1489
担当 高瀬裕美

印刷 宮本印刷